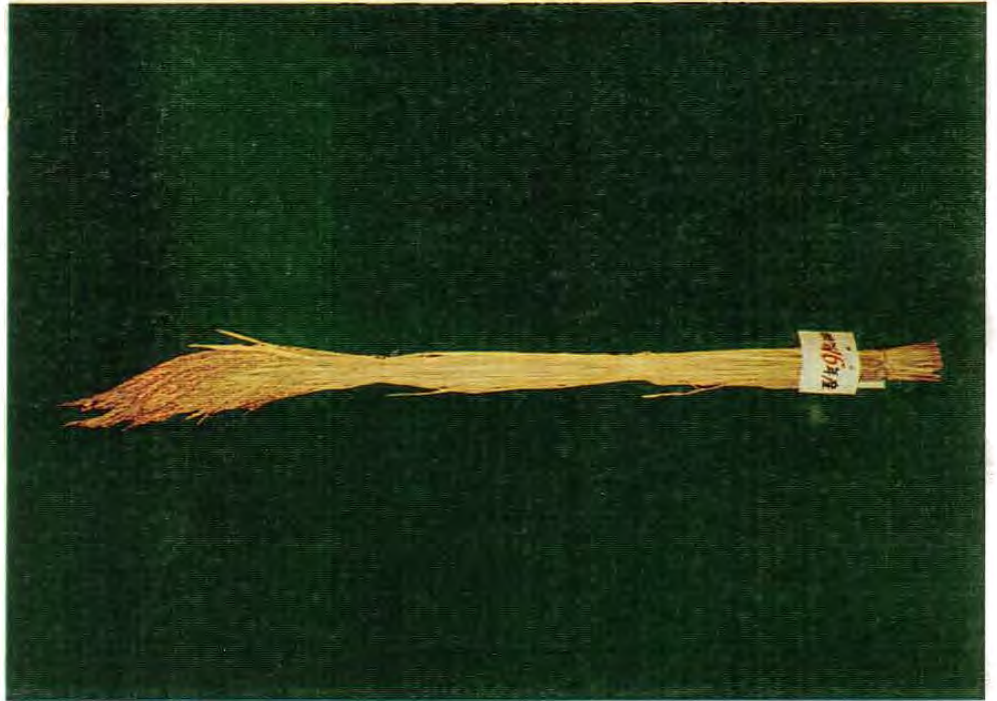


北海道立植物遺伝資源センター広報紙

# 近未来 Genesis

創刊号



## 水稻品種「赤毛」

大正7年(1918)に発行された北海道農事試験場彙報第19号、北海道博覧会出品物解説書に「明治6年札幌郡広島村字島松の篤農家中山久藏初めて之を試作したる以来本道一般に普及せり。長芒早熟種にして穂長中位、粒着疎、稈は淡赤色を帯び、芒及護穎は赤褐色、粒は中粒長形に近く、鈍白色を呈し、外白及腹切稍少なく、品質中位なるも粘りに富み風味佳良なり。莖軟弱にして病害に侵され易きを欠点とす。」との記述があるが、中山翁が渡島地方より取り寄せ普及した品種で、本道稲作の黎明期に活躍した品種である。翁は「北海道稲作の父」といわれ、種籾の選別に力を注ぎ、希望の農家に配布した。明治8年から14年までの記録では反収330~360kgの安定した収量をあげたとされ、明治44年には道内水田面積の八割に普及した。本品種からは後に、「坊主」、「黒毛」等が選出されており、耐冷性品種の祖型となったものである。

写真は明治16年(1883)産の「赤毛」の標本で、北海道大学農学部食用作物講座に収蔵されていたもので、現在は北海道開拓記念館に保存されている。



発行

北海道立植物遺伝資源センター

〒073 北海道滝川市南滝の川363-2 TEL(0125)23-3195

FAX(0125)24-3877

1991. 9. 30



## 創刊にあたって

北海道立植物遺伝資源センター場長  
野村 信史

当センターはこの4月で新生5周年を迎えました。センターの発展にご協力賜っております関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

5周年を機に広報紙「ジェネシス(Genesis)」を発刊することに致しました。春と秋と年2回程度、皆様のお手元に最新の植物遺伝資源情報をお届けする予定です。各試験場からの情報も盛り込みたいと思います。遺伝資源連絡委員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

過去の5年間にセンター貯蔵の植物遺伝資源と各農業試験場で貯蔵されている植物遺伝資源を整理をして、低温貯蔵庫に保管し、「植物遺伝資源保存目録」を平成3年2月に発刊致しました。

当センターではまた国内外の植物遺伝資源の収集にも力を入れ、農林統計から消えた作物を北海道を始めとして、東北地方にも足を伸ばしまさに消滅しようとしている作物、品種の保存を行い、この3月には「植物遺伝資源探索・導入成績書」の中に2,030種を収録しました。



当センターでは北海道の優良品種の原原種を提供してきましたが、今後5カ年のあいだに原原種は民間移行することになり、当センターでは優良品種の基本種子の増殖、保存と緊急増殖業務を行います。

今後は更に新遺伝資源の開発研究を進展させるとともに、

収集保存した遺伝資源の特性を明らかにして、ハリスシステムを進展させたなかで瞬時に遺伝資源情報を提供し、広く遺伝資源の活用を考えて行きます。

関係者各位のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

## パラグアイ見聞録

国際協力事業団主要穀物生産強化計画長期派遣専門家  
山崎 忍

こちらパラグアイは、今晩秋の季節だそうです。すぐ冬が来て寒い日が続くのだとされています。しかし、4・5日前までは日中気温が28℃くらい上がって、畑を歩くと汗が出る暑さでした。

さすがに、ひと雨のあとは涼しくなりました。こちらの人は暑さには強く、サッカーであれほど走っても余り汗をかきませんが、ちょっと涼しくなると、あいさつはフリオ・フリオ(寒い)となってしまう、毛皮のセーターやら皮ジャンを着るわけで、女性は毛皮を着たりして冬の粧を楽しんでいます。

紅葉のない秋というのは、どうも間が抜けていけません。それなりに黄色くなって落葉する木もあります。かたわら、遠見には桜かと思われる花が咲いたり、ハイビスカスが咲き、バナナやパイナップルがなっていたりすると、どうもやはり秋というイメージには合わないのですが、これがこの秋なのだの受け入れがなければ駄目になるわけです。(中略)



米は、北海道のゆきひかりより粘りのあるうまいのを食べています。先日、ここエンカルナシオンから130km離れたアジョラの農家を訪ねたとき、日本米の品種は何かと問いますと、「わからない。日本の稲だ」との返事で、至極大ざっぱなものです。その人は、「今年50ha、来年は200ha位やるかなあ」と事もなげに言っていました。水田にできる土地はパラナ河の流域で、まだ3万ha位あるらしいです。

小麦、大豆とも不作で農家は困っているようですが、力のある人達は残り続けるでしょう。借金で家族全員が日本に出稼ぎに行く人にも会いました。大農と小農の較差は大きく、この国の政治家も「小農対策」を言葉にはしているようですが、難題のようです。(中略)

私のスペイン語はまだまだあいさつ程度でさっぱり進歩せず、こまかい話になると通訳を呼びに行くのですが、時間は4倍位かかります。それで通じたつもりがわかっていずに、とんちんかんなことも時々やっています。

今、まだ秋播小麦の播種の最中です。原原種ほ20haの半分に播いたところで70mmの雨が降ったので、乾燥(土の)を待っているところです。ここから250km離れたイグアス地域では、不耕起栽培(大豆・麦)が普及率90%以上のようなようです。土が乾燥しているときなど不耕起の方が発芽が早いので、びっくりします。ここクリヤ試験場でも、栽培セクションが試験を始めました。私の種子生産の方も、実験的に2haほど不耕起栽培をやってみます。(まず小麦から)

(1991. 6. 13発信)

(前北海道立植物遺伝資源センター専門研究員)



## トルコの小麦遺伝資源

農林水産省・農業研究センター 小麦育種研究室主任研究官  
天野 洋一

昭和58年、農水省企画の小麦探索導入計画に参加させていただき、トルコに約1ヶ月、エジプトに10日の旅をしてきました。トルコは日本秋播小麦のふるさと。冬枯れに対して素晴らしい小麦があるのでは？品質は？収量性、耐病性はどうかなどなど、大きな期待をもっての探索導入の旅でした。トルコでの収集は64地点。各地の材料は比較的均質なもののから、雑ばくな集団と多種多様であり、各集団から10の代表的材料を選び出し、総数640系統として保存、調査、評価しました。北見で初年目に栽培した結果、枯死する材料が多く、また稈が弱く倒伏し、赤かび病、うどんこ病、赤さび病に弱く、白粒種で穂発芽するといったことで大半は極めて作りづらい小麦という印象でした。冬枯れに関連して耐寒性、雪腐大粒菌核病、雪腐小粒菌核病の3形質を検定しましたが、残念ながら「PI173438」並の材料の出現をみませんでした。

他の農業形質でもとくに目を引くものはなく、品質に期待することとして3年栽培を繰り返し、比較的品質の良かった60年播種のもので品質試験を実施しました。麵の食感に対しては見るべきものはなく、わずか麵の色に対して期待されるものが一部認められました。しかし、白粒種のため穂発芽性に難点があります。収集規模が小さかったことから優れた母材を見いだせなかったと考え、USDAの秋播小麦トルコ導入種450点をもらい受け、

同様の調査を行いました。しかし、結果的には芳しい結果は得られずがっかりしました。その後、アンカラの育種試験場から毎年育成系統を100種ほど送っていただいています。在来種に比べると農業形質ではるかに改良されており、良い母材が見いだされることを期待しています。

以上、皆の期待を裏切る結果となってしまい、収集、評価の難しさを改めて感じています。大量の材料をいかに効率よく検定するか、また、どれほど本気で評価に取り組むかにポイントがあるように思います。

(前北海道立北見農業試験場小麦科)







## 『(財)広島県農業ジーンバンク』の概要

## 編集後記

平坦地に乏しく、多様な気象条件を前提に厳しい産地間競争に対応するには、県独自品種の開発は急務である。このため、その基盤となる植物遺伝資源の収集、管理及び利用システムの確立を図るため、平成2年9月に現在の農業試験場内に設立された。

### 施設の内容

構造：鉄筋コンクリート平屋建 864㎡

施設：事務室、会議室、種子中長期貯蔵庫30㎡、種子短期貯蔵庫37㎡、栄養体貯蔵庫2基36㎡、乾燥調整室、発芽試験室、総合実験室、無菌室及び培養室等

### 事業の内容

植物遺伝資源を国内外から収集し、分類同定、特性評価、増殖、保存を行うとともに植物遺伝資源及びその情報を県内の試験研究機関、民間、大学等に提供する。

施設全体の整備が完了するのは、平成4年度の子定である。現在までに、農業試験場が有する水稻、ソルガム等の種子について、発芽試験、水分調整を行い、保存している。平成3年度は県内を中心に遺伝資源の収集を開始する。

( 広島県立農業試験場  
〒739-01 広島県東広島市八本松町原 TEL (0824) 29-0521 )

北海道立植物遺伝資源センターより平成3年2月に発行された「植物遺伝資源保存目録」には、当センターの植物遺伝資源種子貯蔵管理施設の長期保存用貯蔵室内に保存されている7,222点の植物遺伝資源が列挙されています。

その一つ一つが品種開発に残された先人の足跡であり、やがてここから新しい品種が産み出されることを考えると、さながら育種事業の道標を見る思いです。

さて、この中にはユニークな和名のついた品種がいくつかあります。例えば、「チンコ坊主」、「おたふく」、「祇園坊3号」、「ホルスタイン」などです。これらの和名から作物名が想像できますか。答えはそれぞれ順番に、水稻、いんげんまめ、大豆、二条大麦です。

では、「生娘」の作物名は何でしょうか。正解を寄せて下さった方全員に、当センターの特製しおりを贈呈します。

最後になりましたが、北海道立植物遺伝資源センター広報紙のサブネーム「ジェネシス(Genesis)」とは創世記の意味で、職員の投票により選ばれました。21世紀までの10年間にセンターは、遺伝資源の「物」と「情報」が蓄積された新しい情報発信基地へと生れ変わるでしょう。「ジェネシス」には、まさしくそのような未来を創出したいというセンター職員(21名)の期待が込められています。

(編集子)